**令和４年度　学校経営報告（学校評価報告書）**

四條畷市立四條畷小学校

|  |
| --- |
| **１　学校経営方針** |
| 【学校教育目標】  「よく考えてやりぬく子　　　力を合わせてがんばる子　　丈夫な体と豊かな心を持つ子」  「新学習指導要領」に則り、主体的・対話的で深い学びをめざす一方で、ここ数年はコロナによる学校休業などでそのねらいが教職員に共通理解されたとは言えなかった。今年度はそのことを踏まえ、私たち教職員がもう一度新学習指導要領の趣旨を確実に捉え、児童に指導を行っていかなければならない。  令和４年度は、四條畷市教育振興基本計画の掲げる基本理念「みんなの学びが叶うまち～生涯　学び　夢　挑戦～」を本校の理念に据え、積極的に新たな取り組みを実践していく。変化の激しいこれからの社会を生きていくためには、あらゆる人々と共に学び、互いの意見を尊重し、直面する課題に対して、柔軟かつ真摯に対応していく力が求められる。その力の基盤を育成する学校教育において、知「確かな学力」、徳「豊かな心」、体「健やかな体」をバランスよく育て、児童に「生きる力」を育成していかなければならない。  今年度は、四條畷東小学校と本校の学校統合後３年目に当たる。これまでコロナ禍で十分できなかった「新しい学校」づくりを推進し、様々な角度から十分な配慮を行い、両校の児童・教職員・保護者のよりスムーズな接続を実現していきたい。特に、不安をかかえる児童がいないかなど、全教職員で現状や課題を共有し、安心安全な学校づくりを進めていく。 |

校　長　　藤原　吉直

|  |  |
| --- | --- |
| **２　めざす学校像、子ども像、教師像（中期目標）** | |
| **★めざす学校像** | 子どもたち一人ひとりがより輝く「新しい学校」（学校統合３年目） |
| **★めざす子ども像** | よく考えてやりぬく子  力を合わせてがんばる子  丈夫な体と豊かな心を持つ子 |
| **★めざす教師像** | 発想と実行力を兼ね備え、より指導力を発揮できる教師 |

|  |
| --- |
| **３　学校の現状（よさと課題）** |
| （１）子どもたちの実態  本校は今年度で創立１３６年目を迎える。一昨年、東小と本校との統合が行われた。この２年間で、「旧東小」の子どもたちは、新しい畷小に慣れた様子である。また、統合に不安を抱えていた「旧畷小」の児童も、現在では、互いに友達とも交流し、双方の児童は、共に、明るく健やかに育ってきている。  （２）子どもたちを取り巻く環境  ①教育環境・・校区全体において、子どもたちが明るく健やかに育つ環境がある。しかし一方で、厳しい家庭環境で育つ児童や、学校や関係機関で対応する必要のある家庭も存在する。  ②地域・・・・両校区とも、昔からの伝統のある地区を擁し、学校に協力的である。  ③組織（教職員、PTA、保護者）  ・教職員は児童の指導に熱意があり、丁寧な学級づくりと学習指導に前向きに取り組む雰囲気がある。  ・ＰＴＡも歴史と伝統を引き継ぎ、代々学校と連携してＰＴＡ活動を行ってきており、今も畷小にはＰＴＡとは別に後援会が存在している。  ・保護者は、学校に協力的な方が多い。また、子どもたちをいつまでも温かく見守り、楽しい行事等を考えてくださる「おやじの会」という組織が保護者やＯＢで構成されている。 |

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **４　今年度の達成目標、具体的な方策** | | | | | |
| **目標設定区分１　『学校経営』** | | | | | |
| **Ａ　今年度の成果目標** | | **達成基準（各種調査、アンケート等）** | | | |
| 学力の向上と、主体的に考え行動する「生きる力」をはぐくむ教育の推進 | | 学力向上アンケート・学校教育自己診断・全国学力学習状況調査・NRT・全国運動能力調査  A「自分に合った本を選ぶことができますか」  B「理科・生活科で学習したことを普段の生活の中で使っていますか」  C「ICT機器を活用することで、学習が楽しくなりましたか」  D「ICT機器を活用することで、進んで学習するようになりましたか」  E「授業づくりでは、教科の目標を達成させるために必要な対話的な活動を取り入れることができていますか」  F「支援教育の視点から、指導上の工夫を行いましたか」  G「子どもは、学校に行くのを楽しみにしている」  H「子どもは、自分の学級は楽しいと言っている」  I「子どもは、授業が分かりやすいと言っている」 | | | |
| **Ｂ　目標実現に向けた取組み** | | | | | |
| **項目** | **達成基準** | **結果** | | | **評価** |
| ・学力向上の取組み | ・NRT全国平均以上  ・全国学力学習状況調査全国平均以上  ・AB　90%以上 | ・国算理偏差値47.6  ・国-8.6％  算-6.2％  理-6.3％  ・A　91.4％  B　72.8% | | | ・学力調査の結果は目標に届かなかった。基礎的な学力、応用的な問題に対応する力をともに育むため、「主体的、対話的で深い学び」を意識した学びを意識して授業づくりを進めたい。  ・教科の中でも、理科や生活科の指導を全校的なテーマとして研究を進めていく。 |
| ・主体的・対話的で　深い学び | ・CDE　90%以上 | ・C　85.9%  D　70.4%  E　94.3% | | | ・ICTの活用を児童の発達段階に合わせて有効に進める必要があると考える。 |
| ・障がいのある子ど  もの自立支援 | ・F　90%以上 | ・F　97.2％ | | | ・達成できた。引き続き個々の児童に最適な自立支援を研究し、実践していきたい。 |
| ・豊かな心の育成 | ・GHI　90%以上 | ・G　85％  H　91％  I　85％ | | | ・道徳教育、人権教育を着実に行うことができた。 |
| ・体力向上と健康安  全教育の推進 | ・全国運動能力調査　大阪府平均以上 | ・男子+3.6％  女子　+2.5％ | | | ・達成できた。体育専科教員の授業実践の成果が数値に表れたと考える。 |
|  | | | | | |
| **目標設定区分２　『学校組織の運営』** | | | | | |
| **Ａ　今年度の成果目標** | | **達成基準（各種調査、アンケート等）** | | | |
| 学校の組織力の向上と安心安全の確保 | | 学力向上アンケート・学校教育自己診断・校長の学校運営に関するシート  A「学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有していますか」  B「子どもは、学校に行くのを楽しみにしている」  C「子どもは、自分の学級は楽しいと言っている」  D「子どもは、授業が分かりやすいと言っている」  E「事故や問題事象の発生時に、組織的な対応ができるよう、危機管理体制を周知徹底している」  F「課題解決に向け、教職員が総体として動くよう、校長としてリーダーシップを発揮している」 | | | |
| **Ｂ　目標実現に向けた取組み** | | | | | |
| **項目** | **達成基準** | **結果** | | **評価** | |
| ・校内研修 | ・A　90%以上 | ・A　96.9％ | | ・達成できた。教職員が広い視野で校内の課題に向き合えていると感じる。 | |
| ・生活指導 | ・BCDEF　90%以上 | ・B　85％  C　91％  D　85％  E　96％  F　88％ | | ・教職員が組織体制で生活指導にあたる意識を持てたことが児童の安心安全につながっていると考える。 | |
| ・自然災害等に備えた体制の充実・防災教育の取組み・コロナ対策 | ・EF　90%以上 | ・E　96％  F88％ | | ・概ね達成できた。校長の情報発信に改善の余地があると考えている。 | |
|  | | | | | |
| **目標設定区分３　『人の管理・育成』** | | | | | |
| **Ａ　今年度の成果目標** | | **達成基準（各種調査、アンケート等）** | | | |
| 教職員の資質能力の向上と人材育成 | | 校長の学校運営に関するシート  A「教員の授業力の向上をめざし、授業観察後の指導・助言を適切に行っている」  B「業務量の多い教職員への声かけを行うなど、仕事が一部に偏りすぎないよう配慮し、業務の分配に努めている」  C「教職員が協力して、円滑に職務を進めるため、適切な指導・助言を行っている」  D「体罰、セクシャルハラスメントやパワーハラスメント等のない、人権が尊重された学校環境づくりに努めている」 | | | |
| **Ｂ　目標実現に向けた取組み** | | | | | |
| **項目** | **達成基準** | **結果** | **評価** | | |
| ・教職員の組織的・継続的な人材育成 | ・A　90%以上 | ・A　89％ | ・ほぼ達成できた。今後も授業観察や適切な指導助言に努めたい。 | | |
| ・教職員の働き方改革 | ・BCD　90%以上 | ・B　84％  C　89％  D　96％ | ・業務量の偏りは想像以上に教職員の負担感につながっていることが分かったので改善したい。 | | |
| ・不祥事の防止 | ・D　90%以上 | ・D　96％ | ・今後も普段からの意識づけを行う。 | | |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **目標設定区分４　『地域連携と渉外』** | | | |
| **Ａ　今年度の成果目標** | | **達成基準（各種調査、アンケート等）** | |
| 家庭・地域・学校の連携、協働の推進 | | 学力向上アンケート・学校教育自己診断  A「学校の教育活動の内容や様子はよくわかる」  B「子どものことについて、気軽に学校に相談できる」  C「学校の授業時間以外に、普段一日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」  D「学校の授業時間以外に、普段一日あたりどれくらいの時間、読書をしますか」 | |
| **Ｂ　目標実現に向けた取組み** | | | |
| **項目** | **達成基準** | **結果** | **評価** |
| ・学校教育目標、めざす子ども像の共有 | ・AB　90%以上 | ・A　86％  B　87％ | ・学校からの発信やコミュニケーションを推進していきたい。 |
| ・学校運営協議会の活性化 | ・会議で計画した活動を実行する | 学校の大掃除に地域の方が参加できた | ・手探りの状態であったが委員の皆様の協力で具体的な活動を始められた。 |
| ・家庭教育支援の充実 | ・CD　「全くしない」をともに10%以下 | ・C　11.3％  D　29.3％ | ・勉強時間、読書時間とも目標に遠く届かなかった。家庭での教育を支援するため、さらなる方策の検討が必要と考える。 |

|  |
| --- |
| **５　総合評価と次年度に向けて** |
| 1年を通して、基礎的な学力向上のための取組み、読書活動、ICT活用、授業スタンダードの導入など全校的な取組みを教職員が一致して行うことができたことは評価できる。また、多くの教職員が熱心に授業づくりと学級づくりにむけて努力し、学校運営には組織的に関わる意識を持てたことも本校の強みであると考える。しかしながら本校の最大の課題が学力と生活指導上の課題にあることは残念ながら少なくともここ数年変わらず、今もその克服にはまだまだ遠いと言わざるを得ない。学校経営の視点で、本校の児童を現状からどのように変容させていくのか、そのために必要な組織や人材育成、地域連携等の学校運営の在り方はどのようなものか、マンネリ化や諦めの思考停止に陥ることなく次年度も考えていきたい。 |